

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 北海道2010

洞爺湖で全国子ども水会議

～子どもでもできること。子どもだからできること。～

8月2日から4日までの2泊3日の日程で、北海道立洞爺少年自然の家（ネイパル洞爺）を主たる会場に、今年で8回目となる『世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 北海道2010』が開催され、全国からの応募作文により選ばれた水に関心のある中学生・高校生が、北は北海道から南は鹿児島県まで18都道府県から39名が参加しました。

川や水に関する活動は、地域や学校では少数派であり、全国各地で活動方法は異なります。そこで、中学生・高校生が全国から集まり、日ごろの成果や考えについて情報を共有しながら、「水による災害」「安全な川での体験活動」など決められたテーマごとに6人から7人のグループで6分科会に別れて、水について議論する国内最大級の『子ども水会議』です。

分科会のファシリテーターや開会式や交流会等の進行を含め、運営スタッフは本大会のOB・OGを含む、水に関心のある大学生により構成しています。

日本の子どもたちが感じている『水問題』とは何か、子どもたちにできることは何かなどを3日間、水に関わるさまざまなプログラムを踏まえながら新たな考えを導き出します。



後援：文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、北海道、北海道教育委員会、洞爺湖町、NPO法人日本水フォーラム、NPO法人自然体験活動推進協議会、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会、(株)ガールスカウト日本連盟

大会プログラム（8月2日～8月4日）

プログラム(8/2)	プログラム(8/3)	プログラム(8/4)
9:00 会場準備(新千歳空港)	7:00 起床	7:00 起床
11:00 受付開始(新千歳空港・会議室3A) ★分科会担当ファシリテーター等都合合わせ ★写真撮影(自己紹介シート用)	7:30 朝食(食堂)	7:30 朝食・後片付け等退所準備
12:35 (進行:運営スタッフ) ★開会宣言(参加者代表) ★開会挨拶(実行委員長) ★実行委員紹介 ★開催趣旨説明	8:30 体験活動 ★本日のスケジュール確認 ★水に関する体験活動等(洞爺湖) Eポート、カナディアンカヌー、カヤックを利用し安全講習および体験活動	8:30 出発・新千歳空港へ移動
13:00 (進行:運営スタッフ) ★スケジュール説明 ★本大会の注意事項 ★全スタッフ紹介	12:00 昼食(食堂)	11:00 全体発表会(新千歳空港・大会議室2A) (進行:運営スタッフ) ★各分科会の成果発表 (発表15分、質疑5分、委員コメント5分) ※委員コメントは各分科会毎に1.2名 (6分科会@25分程度(移動含)) ★意見交換
13:15 (進行:運営スタッフ) ★名刺交換会 ★アクティビティ	13:00 分科会②2時間 つどい室 ★体験活動の振り返り ★各分科会での討論	13:30 昼食(新千歳空港・大会議室2A) ★さよなら交流会(立食) ユースなど活動報告
13:40 洞爺へ移動・バス ★アクティビティ	15:00 交流会 談話室 (進行:運営スタッフ) ★参加者全員でWS (アクティビティなど)	14:30 開会式(新千歳空港・大会議室2A) (進行:運営スタッフ) ★講評(実行委員) ★開会宣言(参加者代表) ★開会挨拶(実行委員) ★記念撮影
16:00 ★町長挨拶(体育館) ★記念撮影(屋外) ★館内利用説明	16:00 分科会④2時間 つどい室 ★各分科会での討論	15:30 解散(新千歳空港)
16:30 分科会①1.5時間 つどい室 ★自己紹介(事前学習レポート発表など)	18:00 夕食(食堂) ★各分科会で食事 ★20:00までに入浴	
18:00 夕食(食堂) ★各分科会で食事 ★20:00までに入浴	19:00 分科会③3時間 つどい室 ★各分科会での討論	
19:00 分科会③3時間 つどい室 ★各分科会での討論	22:00 後片付け・就寝準備 22:30 就寝	
22:00 後片付け・就寝準備 22:30 就寝		

世界子ども水フォーラムとは？

深刻化する世界の水問題を解決するために、行政・市民・学識者など、さまざまな分野の人たちが集まり、2003年3月に「第3回世界水フォーラム」が京都・滋賀・大阪で開催されました。その中の分科会のひとつとして開かれたのが第1回「世界子ども水フォーラム」です。その後、06年3月にメキシコ、09年3月にイスタンブールで開催された「世界水フォーラム」にも開催されています。過去2回の各国で開催された「世界子ども水フォーラム」には、日本からも毎回6、7名の子どもたちが参加しています。

世界子ども水フォーラム・フォローアップとは？

「世界子ども水フォーラム」で得た経験と知識を国内の子どもたちに引き継ぐこと、子どもたちの活動を展開させること、さらに子どもたちのネットワークを広げていくことを目的として、「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」が毎年開催されています。これまで03年広島、04年宮城、05年東京、06年丹沢、07年福岡、08年東京、09年岐阜、そして10年が北海道です。

活動内容

概要

6分科会でそれぞれ決められたテーマについて議論し、発表することがメインのプログラムですが、参加者全員とできるだけ交流が持てるように、「交流会」や「体験活動」により開催地の「水」に関われるようなプログラムとしました。

1日目（8月2日）

開会式・オリエンテーション・アイスブレイク

新千歳空港内の会議室にて開会式を行いました。初めての参加者も多く、緊張の空気が伝わりました。



藤野郁乃 さん

緊張の中、参加者を代表して開催地である北海道から参加の藤野郁乃さんより「私たち自身の活動のさらなる発展へとつなげていくとともに、全国から集まった仲間とのネットワークも広めていきたいと思います」と、力強い開会宣言で北海道大会が始まりました。



田丸典彦 氏
北海道教育大学釧路校名
誉教授

また、田丸典彦実行委員長から「水の問題は、地球環境を考える上で重要。次世代を担うみなさんが実践を世界に広げ、深めていける、素晴らしいフォローアップになるように願います」と挨拶をいただきました。

オリエンテーションやアイスブレイクでは少しでも早く緊張が解けるように運営スタッフである大学生たちにより、大会全般における困ったときの注意事項をはじめ、名刺交換をしながらサイレントゲームなどの



真屋敏春 氏
洞爺湖町長

アイスブレイクを行い、徐々に緊張をほぐしていきました。

アイスブレイク後、新千歳空港を後にし、主たる会場である「洞爺少年自然の家（ネイバル洞爺）」へ移動しました。

ネイバル洞爺では実行委員である真屋敏春町長から歓迎のご挨拶を受けました。

分科会（1日目）

ファシリテーターを中心に、主に普段の水に関する活動や考えを発表しながら、分科会ごとのルールづくりや分科会のテーマなどについて、徐々に考えや思いを引き出しながら、3日間の進め方について議論しました。

参加者同士が少し和んだところで1日目は終了しました。

分科会テーマ

「水による災害（洪水や津波、土砂災害等）」	第1分科会
災害による被害を軽減するために普段から行うべきこと。また、災害発生時・災害発生後に子どもたちができること、災害後の復旧についての子どもたちが行えることなど。	
「安全な川での体験活動」	第2分科会
ボート等を使った川下りや生物調査等の川をフィールドとした体験活動を通して得られたことや伝えたいこと、水難事故防止のために行うべきことなど。	
「河川環境の保全・復元・再生」	第3分科会
川に関わる自然環境（生態系、水質、外来種、ゴミなど）を保全するために、子どもたちが行うべきことなど。	
「水環境の保全・復元・再生」	第4分科会
水に関わる自然環境（水資源、水質など）を復元・再生するために、子どもたちが行うべきことなど。	
「生活（暮らし・産業）に必要な水」	第5分科会
日々の生活において、必要な水（使っている水）について思うこと。また、水が足りない地域において、人間の生活や産業活動に必要な水を確保するために、子どもたちができることなど。	
「水と歴史・文化」	第6分科会
人類が育ててきた水に関わる歴史・文化を守り、後世に引き継ぐために子どもたちができること、伝えたいことなど。	



北海道立洞爺少年自然の家（ネイバル洞爺）の前にて

2日目 (8月3日)

洞爺湖での体験活動

バイエルンの風カヌー学校の鳥畑博嗣校長を講師に迎え、洞爺少年自然の家のスタッフの協力のもと、Eボートとカナディアンカヌーとカヤックを使った安全講習を行いました。

カヌーなどに乗って浮いて楽しむだけでなく、「ボートはひっくりかえる乗り物であること」「定員を超えると沈む乗り物であること」など、危険を想定した乗り方を伝えることで、かえって水の上の不安定感からくる不安感が薄れることに加え、自分の身を守る方法や友達を助ける方法などを実践しました。

さらにEボートが洪水時には物資を運ぶなど、防災にも役立つなどの説明があり、参加者にとって「楽しい」だけでなく、今後の河川環境などの関わり方について非常に印象付けられる講義となりました。

湖での活動に不安があったり、まだ緊張していた参加者も、一気に緊張がほぐれたようでした。



Eボート、カナディアンカヌー、カヤックとさまざまなものを体験



鳥畑氏による講習



転覆も講習のひとつ

交流会 理想の川「〇〇な川があったらいいね！」

分科会以外の仲間同士の交流の場として交流会を行いました。

個人が考える「あったらいい川」(理想の川)を一つ考え、分科会とは異なるグループ内でみんなの理想の川をつなぎ合わせてできた川を発表します。魚がすみやすい川からファンタの川、息ができる川など、自由な意見がたくさん出ました。

ゲーム感覚でみんなの意見をまとめ発表することは、分科会の活動にもつながります。

分科会 (2日目)

この日の分科会(約7時間半)は、次の日の発表会に向けて意見を出し尽くし、取りまとめ、発表方法まで決定するという、本大会での最も山場になりました。1日目はファシリテーターの力をかなり借りていましたが、体験活動により緊張がほぐれ、意見も活発になり時間を追うごとに慣れ、自然と役割分担ができ、意見をまとめていくなど、参加者自ら積極的に話し合いをするまでに成長していく様子が見えられます。最後まで、まとめ方について悩んでいる分科会もありましたが、ファシリテーターの努力もあり、無事次の日の準備ができました。

3日目 (8月4日)

発表会

3日間話し合った内容について、教室形式で先生になり他の参加者に質問をしたり、演劇により気持ちの変化や考えを表したりと、どの分科会も個性豊かな発表となりました。

限られた時間の中で、自分の意見を伝え成果を出すことは、参加者にとっては良い経験になります。



第2分科会



第4分科会

主な発表内容

第1分科会

災害経験の多いこの分科会では、記憶が薄れてきた災害の恐さについて、もう一度思い出し、これから自分たちができることを演劇形式で発表しました。

第2分科会

体験活動における「個人のとりくみ」と「人のつながりが必要な物」について分科会で上げられた意見を発表。

そこから、「輪」「和」「羽」と、実質的なつながりと心のつながり、を通して未来に羽ばたくという意味をこめて3つの「わ」につなげまとめた。

第3分科会

分科会の流れがよく分かるように、理想の川にするためにはどうすればよいかをそれぞれの意見を発表し、結果、理想の川になるまでの活動とその結果が生み出すサイクルを発表しました。

第4分科会

「水環境」を良くしていくためには仲間が大切。仲間と行う清掃活動の楽しさや意義を演劇で伝えました。さらに人々に関心を持ってもらうためにできることを発表しました。

第5分科会

きれいな川から産業排水により汚染され、身近な活動を通じて川を取り戻すという、「段階」を演劇形式で発表。

魚がすみやすい川にすることができることなど、未来の水を守るためにできることをまとめて発表しました。

第6分科会

河川文化について、関わりの原点に戻り昔と今の違いについて考え、他の参加者を交えながら授業形式で発表しました。さらに、未来の河川文化について目標を定め、達成するための解決策を発表しました。

さよなら交流会

最後の意見交換の場として、運営スタッフより、大学生として行っている水の活動（東京水ユース）などを紹介、高校を卒業してもできる活動があり、これからも水について学ぶ場所があることを伝えました。また、現在活動している内容についても参加者が積極的にPRしていました。

2日前までは緊張していた参加者ですが、すっかり打ち解けあい、別れを惜しんでいました。



第1分科会の発表



第3分科会の発表



第5分科会の発表



第6分科会の発表

閉会式

実行委員である国土交通省河川環境課長中嶋委員代理として古市課長補佐から「この3日間の経験をより多くの人に伝え、地域の人々に伝えてもらいたい。この活動を今後も続け、盛り上げていってほしい」との意見をいただきました。

また、閉会宣言は、今回最も遠い鹿児島県からの参加者の近藤大地さん、近藤直喜さん、中富七夕乃さん



(写真左から)の3名が代表して「この経験を地元の仲間と共有して、仲間を増やし活動を広げていきたい」と立派に宣言を行いました。

最後に

開催後のアンケートで「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」の魅力を知りました。

「全国から中高生が一堂に集まって水についての話し合いができること」「全国各地の水についての活動やさまざまな水との関わり方を知ることができること」「全国に水仲間ができること」などがあげられました。普段、少数で活動することが多く、周囲に理解してもらえなかったりしますが、ここでの経験が自信につながり、「もっと積極的に活動していこう」と自信がつくようです。

次世代を担う中学生・高校生の感性を豊かにし、未来の河川環境等について少しでも役立てるように「フォローアップ」を今後も継続していきたいと思えます。

(財団法人河川環境管理財団子どもの水辺サポートセンター 上成 純)

※ 詳細は「子どもの水辺サポートセンター」HPをご覧ください。
<http://cwwf-f.jugem.jp/> (運営スタッフ作成ブログ)

